

風物誌

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第104号 平成30年(2018)12月1日

資料見聞

『うなるの友』

「うなる」とは幼い子どものことで、その友である玩具の絵を集めた本が『うなるの友』です。形も色もレイアウトも絶妙に、各地の玩具が描かれています。そこには、玩具をいとおしまなざしを感じられます。

絵を描いたのは、「おもちゃ博士」と呼ばれた玩具収集家の清水晴風です。初編は芸艸堂から明治24年(1891)に刊行されました。

日本の各地でさまざまな玩具が手作りされ、伝えられてきましたが、明治

時代、外国の文化が急速に入ってきたことによってその多くは廃れていきました。しかし、そうした中でも、玩具の魅力を見出し、鑑賞して楽しむ大人も現れました。その先駆けが晴風です。

晴風は『うなるの友』6編が刊行された後で亡くなりましたが、画家の西澤笛畝が引き継いで、大正13年(1924)の10編まで刊行しました。

当館は、「相合傘」と「土佐女達磨」が掲載された7編を所蔵していますが、そのほか、8編には「彩色船」、9編

には「鯨船」といった高知の玩具も掲載されています。

写真は3編の「古製土佐雛」。実物は見たことがありませんが、晴風が描いた雛人形は何だか抽象的な形をしています。五色の糸の衣をまとい、黒い糸は冠や髪表現のようにみえます。また、松に鶴が描かれた紙のようなものもみられます。

玩具収集家のバイブル『うなるの友』には、今も脈々と伝えられている郷土玩具とともにこうした廃絶した玩具が収録されています。

当館では、企画展「郷土玩具にみる明治のおもかげ」の関連企画として、

「古製土佐雛」『うなるの友』3編(芸艸堂、明治44年刊)個人蔵

『おもちゃ博士・清水晴風』(共著)など多くの著書がある中村浩訳氏の講演会「郷土玩具と呼ばれるようになるまで」郷土玩具は明治時代に発見された！」を平成31年1月26日に開催します。中村氏はグラフィックデザイナーの仕事とをされつつ、郷土玩具を4〜5万点以上収集されてきた筋金入りのコレクターです。講演会では、『うなるの友』が生まれた明治時代にスポットを当てて、郷土玩具についてお話しいただきます。

(中村)



志国高知
幕末維新博関連企画第9弾

企画展

郷土玩具 にみる 明治の おもかげ

会期：平成31年1月2日（水）
～3月24日（日）



平成にブレイク

今年の正月、長いこと年賀状をやりとりしてきた千葉県の方からフランス語の郷土玩具の本をいただきました。

日本各地で作られている人形や玩具の土産が紹介された『MYAGE』です。今春の企画展「堺事件」の日仏友好のコーナーにピッタリなので、関連図書として来館された方々にページをめくっていただきました。本展でも開架します。

この本、雑誌『BRUTUS』の連載「みやげもん」のエディターによる、すこぶるカッコイイ書籍です。現在、郷土玩具はひそかなブームになっています

が、その大きな牽引役のひとつが同連載だと思っています。

本の表紙は、千葉県の佐原張り子のキュートな招き猫。本をくださった方の年賀状はいつも佐原張り子の干支物です。秋田県出身の恩師からは中山人形、郷土玩具の作家さんからは新作の干支物。「今年の年賀状は、どんなのかなあ」とワクワクです。

さて、本展では、平成21年に当館へコレクションをご寄贈くださった高知市の収集家・故山崎茂さんの郷土玩具を中心に展示します。

伏見や津屋崎、古賀など、大きく堂々とした作品の多い、洪くて美しい土人形が特に好きな山崎さん。一方、私

は赤坂人形や文字ヶ関人形、佐原張り子といった素朴でかわいいものが好き。山崎さんの人形部屋を訪ねると、郷土玩具についてお教えいただいたり、お互いの一推しの魅力を語りあったりして、話は尽きることがありませんでした。

明治に発見、大正に名付

本展のおもな展示資料は、人力車や馬車など明治の文物をモチーフにした郷土玩具です。それらを通して明治時代の社会のようすや文化的な雰囲気や垣間見ていただこうと思います。

そのほかに、佐原張り子など明治生まれの人形や玩具もご紹介します。高知県からは「相合傘」。よさこい節の「坊さんかんざし」を題材にした人形です。戊辰戦争に参加した岡本楠次郎が、その後、東京・芝の神明通りの店先で相合傘の人形を見て着想しました。楠次郎の本職は花台のデコシ（人形師）で西畑人形の頭も作っています。山崎さんのコレクションには楠次郎作の相合傘が含まれています。

また、山崎さんの先輩、故城田政治さんの郷土玩具から明治の文豪・小泉八雲が「私に取って、すべての中で、最も美しいのは小さな人形」と賞賛した松江姉様などを展示します。



餅つきうさぎ 佐原張り子（千葉県）



松江姉様（島根県）



相合傘（高知県）



蒸気船 倉敷張り子 (岡山県)



女学生 長門張り子 (山口県)



馬乗り鎮台
春日部張り子 (埼玉県)



人力車 清水張り子 (静岡県)



馬車 宇土張り子 (熊本県)

昭和時代、郷土玩具のブームが何度か起きました。北海道土産といえ、
「木彫りの熊」という頃もありました。
城田さんは戦火でコレクションを失う
も戦後収集を再開。山崎さんは昭和48
年に収集を開始しています。郷土玩具
の新たな作り手も続々生まれました。
平成最後の郷土玩具企画展となる本
展は、明治を中心に郷土玩具のこれま
でを振り返ります。合わせて、草流舎
の「土佐和紙と土佐漆喰の郷土人形」
と asakozirushi の「消しゴム版画の郷
土玩具」のコラボ展を開催し、次の時
代の郷土玩具の可能性を感じていただ
きたいと思います。郷土玩具からのイ
ンスピレーションが響き合う展示や関
連行事をお楽しみください。(中村)

昭和に流行、そして

本展とともに、平成30年12月14日から
平成31年1月27日までは「干支の玩具
亥」、2月2日から3月17日までは「お
ひなさま」のコーナー展を開催。冬から
春にかけての当館は郷土玩具祭りです。
なお、干支の玩具展は中村浩訳氏の
『十二支の郷土玩具』をいつも参考に
していますが、今回の中村氏のご講演
は、明治時代に発見されて大正時代に
「郷土玩具」と呼ばれるようになるま
での高知スペシャルバージョンです。

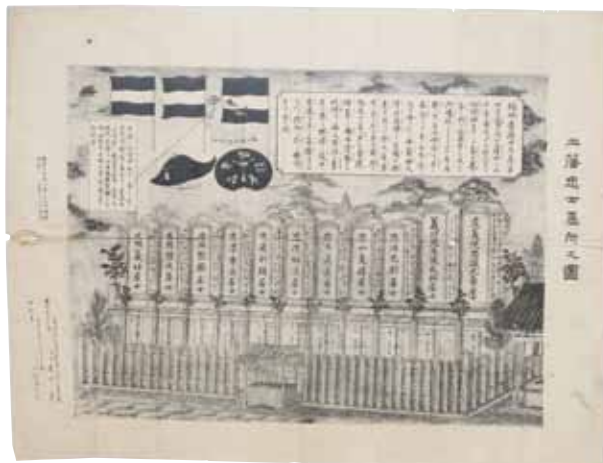
「堺事件展」後の様々な反響

当館では、本年1月～3月の期間、企画展「堺事件―150年の時を経て―」を開催しました。企画展の概要については、本誌で度々ご紹介してきましたので、本号では企画展のその後の反響について触れてみたいと思います。

企画展の期間中、堺事件の責任を取って切腹、または流罪となった20人の土佐藩士のご子孫から様々な資料や情報が寄せられました。

なかでも箕浦猪之吉の六番隊に所属し、切腹した杉本廣五郎（御足輕肝煎并玉薬取扱兼勤）のご子孫からは、廣五郎の供養に関する資料をご寄贈いただき、貴重な知見を得ることができました。

この寄贈資料によって、切腹した十一士のご子孫と、宝珠院、妙國寺は、事件後も継続して関係を維持していたことが確認できました。なかでも明治25年発行の「土藩忠士墓所之図」は、明治初期に刷られた宝珠院発行の最初の刷り物を原板とし、新規に刷り直した未見のものでした。また、昭和42年に妙國寺から杉本家に送られてきた書簡は、「土佐烈士百年祭法要日程変更」



「土藩忠士墓所之図」杉本家寄贈

の通知文で、全十一士のご子孫すべての名簿も含まれていました。

今回の企画展で際立っていたのは、会期中よりむしろ会期後の様々な反応でした。通常は企画展の終了とともに関心が薄れてゆくのが普通ですが、終了後に大阪の大手新聞各社から「企画展の総括記事を書きたい」という要請があったのは驚かされました。また、様々な団体から講演会や講座の依頼が相次いだ他、流罪先で亡くなった藩士の慰霊祭へのご案内もいただきました。



入田地区自治会建立の記念碑を囲む関係者

切腹が中止となり土佐に帰還した9人の藩士は、あらためて渡川（四万十川）以西の入田村（現四万十市）に追放処分となりました。その中で、川谷銀太郎だけが現地で病死したことから、その事実を風化させないため、墓前祭が挙行されたのです。当日は記念碑の近くで講演をさせていただきましたが、堺市からも市民ボランティアの方達が来られており、この事件が多くの人びとの心を動かす悲劇性を持っていることを痛感させられました。

中学校から社会科の研究授業への協力要請もありました。現在授業時数の関係もあり、「堺事件」を取り上げる学校はほとんどないと思いますが、3

時間を充て、この事件の本質を生徒に討論させたいという先生の情熱には本当に頭が下がりました。正直、複雑な当時の特殊事情を中学生がどこまで理解できるのか不安もありましたが、実際授業を行ってみると生徒たちの受け止めや反応は予想を上回るものでした。「限られた情報しかない中で何かを判断することはすごく危険なことだと思う」「組織の責任を個人の責任にしているのはおかしい」「外国人に対する偏見があったのなら悲しいこと」等々。様々な視点からの白熱した討論を聞いていくうち、この事件の本質は、実は現代社会にもそのまま当てはまるのだということに気付かされました。

（野本）



佐川中学校における特別授業

西日本豪雨による被災書籍の救援活動報告

今年7月、記録的な大雨によって、西日本の広範囲で河川の氾濫や土砂崩れといった被害が発生しました。特に大きな被害を受けた地域のひとつが愛媛県宇和島市吉田町です。吉田町には、四国で唯一、臨済宗の僧堂（雲水^{うんすい}と呼ばれる修行僧が集団で生活し修行する場）をもつ大乘寺が現在も法灯を守り継いでいます。当館は昨年開催した特別展で御寺宝を借用した御縁があります。

7月上旬、高知県内の寺院を通じて、大乘寺の被災状況を伺いました。近くを流れる川が氾濫し、境内まで浸水、堂宇の一部は床上浸水したということでした。また、所蔵する書籍類が水にぬれ大変困っているとのことでした。すぐに直接おうかがいし状況を確認したところ、明治から現代にかけての雑誌や洋装本などの蔵書類が泥水にぬれ、一部にはカビが発生していることも確認できました。一刻も早く乾燥させカビを除去しなければ、本は開くことができなくなってしまう状況でした。しかし、市内は断水が続き、お寺の建物や庭、宇和島市指定となっている歴代藩主の墓所などにも浸水による被害が発生しており、蔵書類の乾燥や整理に

人手を割ける状況では到底ありません。なんとか高知から援助はできないかと模索が始まりますが、いくつかの課題がありました。

まずは、だれが救援するか。「なんだ、歴史館で預かってあげればいいじゃないか」と思われるかもしれませんが、実は簡単ではありません。というのも、今回の対象は文化財というより寺院が保管する蔵書。しかも場所は愛媛県です。まずは愛媛県で救援活動が行えないか、愛媛の文化施設に問い合わせました。しかし愛媛県内では多くの文化的にも精神的にも限界とのお返事でした。そこで、愛媛県の文化施設などで構成する「愛媛資料ネット」から、高知県内の文化施設などで構成する「こうちミュージアムネットワーク」へ本件についての救援依頼を出してもらったこととしました。これにより当館だけでなく、高知県内の複数の文化施設や関係者が関わる救援体制が整いました。

次にどこで保管し乾燥やカビの除去作業を行うか。これについては、高知大学の松島准教授のご協力で高知大学の一室を提供いただくことができました。しかし夏休みのみという期限付き。

限られた期間でできる最大の処置を行うという目標がたてられました。

7月下旬、蔵書が高知大へ運び込まれました。持ち運びの利便性を高めるためにミカンの収穫・保管に使うプラスチック製の箱に本を分類していたのですが、総数にして約50箱分、2トントラック1台分に及びました。

被災から3週間ほど経過してからの輸送でしたが、多くの蔵書がまだ濡れている状態でした。そのため、まずは乾燥させることを最優先しました。ミカンのコンテナ箱には側面、底面ともに穴があるため乾燥には効果的でした。除湿機や扇風機を使用しながら2週間ほどかけて乾燥作業を行いました。

その後、のべ7日間をかけ、こうちミュージアムネットワークに加盟する館の職員や個人会員が集まり、カビの除去、固着したページをはがす作業などを行いました。

最終的にはアルコールを噴霧し、カビの殺菌を行いました。しかし、泥やカビによって付いてしまったシミを完全に除去することは、今回の限られた



高知大学に運び込まれた蔵書類



作業のようす

設備や期間ではできません。蔵書として活用できる最低限の状態に戻すこと、つまり本を「読める状態」に戻すことを目標に行った作業ではありませんでしたが、10月初めにご返却した際には喜んでいただくことができました。

また、これまでこうちミュージアムネットワークで連携して災害支援などを発動したことがありませんでしたので、わたしたちにとっても大変貴重な経験となりました。来たるべき南海トラフ地震はもちろん、最近では局地的な災害も増えています。もしどこかの地域や館が被災した場合に、迅速に他館が救援を行える体制づくりやシミュレーションが欠かせないと感じました。今後も館単独での活動だけでなく、県全体で連携した活動に積極的に参加していきたいと考えています。（那須）

岡豊城跡国指定史跡10周年に寄せて

―岡豊城跡の近・現代考古学―

当館の立地する岡豊城跡は、昭和30年（1955）2月15日に高知県の史跡として指定され、平成20年7月28日には国指定史跡となりました。

岡豊山は城跡として知られています。岡豊山が近・現代に城跡としてどのように活用されてきたかはあまり知られていません。そこで、岡豊城跡の近・現代について、遺跡や『岡豊村史』等から垣間みてみたいと思います。

明治27年（1894）に日清戦争が始まりました。岡豊村からも20名が出征し、全員無事凱旋しています。この日清戦争の勝利を祝い、岡豊城跡の厩床（伝厩跡曲輪）を村が購入し、明治28年に日清戦争の凱旋記念碑を建立、公園化しています。この岡豊公園征清凱旋碑の碑文は、坂本龍馬の小説『汗血千里駒』を書いた日清戦争従軍新聞記者でもあった坂崎紫瀾（坂崎斌）が撰文したものです。明治37年（1904）には日露戦争が始まり、村でも戦死者ができました。そこで、明治42年7月に村民総動員で石碑（墓標）を引き上げ、戦死者の墓地が造られました。この曲輪は昭和57年（1982）頃には岡豊史跡公園の一面として児童

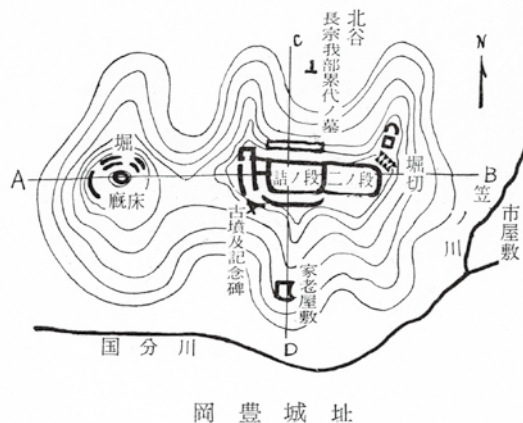
公園となっていました。

昭和9年（1934）10月25日の『高知新聞・土陽新聞』には、個人所有の岡豊城跡を全山公園化し草木を植え、開放し登山者で賑わっていることが書かれています。この時に現在の四ノ段南に「長宗我部氏岡豊城址」の碑が建立されていますが、その際に岡豊山古墳が見つかり、須恵器や鉄器等が出土しています。

かつて岡豊城跡への登り口は、伝長宗我部氏一族の墓のある場所の北方にあったとされ、県道384号線沿いに碑があったと言われています。その後、碑は撤去されたようです。

なお、昭和19年（1944）には、岡豊公園の墓地を廃止し、昭和20年には八幡に忠霊塔が建立されています。先にも述べたように昭和30年2月15日には、高知県の史跡となっています。平成8年に刊行された『高知県文化財ハンドブック』（財団法人高知県文化財団発行）には、「岡豊城跡」として東から撮影した二ノ段の写真が掲載されています。現在は撤去されている高射砲の台と考えられるものが2基写っており、太平洋戦争時に城跡が利用さ

れたことがわかります。県史跡指定時の『岡豊城跡調査報告』（高知縣古文化財調査委員安岡源二）の図面によると現在の二ノ段北東（長宗我部展示室等がある場所）には、堀切、曲輪、土



昭和34年の『岡豊村史』に掲載された岡豊城跡の図

星が存在していたと考えられます。昭和45年（1970）10月27日付けの『高知新聞』に「きょう一般オープン、岡豊山ハイランド完成」と見出しがあり、高知放送が建設していた岡豊山ハイランドが完成し、26日に開園式を実施、27日から一般に開放するとあります。記事によると「長宗我部元親の居城跡であり、頂上付近の本丸（詰）、二の丸（二ノ段）が県指定の史跡となっているが、十分な保護と活用がされていなかった。そこで同社が約

十三万平方メートルを買収し、さる四十二年八月から総工費約一億円で『歴史公園』として整備していたもの。」とあります。さらに旧国道（現県道）32号線から登山道を登ると三の丸が60台分の駐車場とレストラン（現在の歴史民俗資料館の位置）となっています。一段高い二ノ段から詰には芝生が植えられ、遊歩道があると書かれています。南斜面には、パイプスキーの施設がありました。このころに城跡は開発されたのです。昭和48年（1973）には、ハイランドにフィールドアーチェリーができ、岡豊町の大久保健一氏が専任指導員となって、選手を育て、昭和53年（1978）にはスイスで開かれた世界選手権で岡豊山ハイランド所属の選手、河渕志津子氏が優勝しています。昭和58年8月に岡豊山ハイランドに一大転機が訪れました。岡豊山が県立歴史民俗資料館の建設地となり、平成3年に開館、現在に至っています。明治時代から地域の方々に大切にされ、活用されてきた岡豊城跡は、国史跡に指定されて10年が過ぎました。この間、平成29年4月6日に公益財団法人日本城郭協会により、続日本100名城に認定され、日本全国から来城者が訪れています。今後も地域の方々と史跡の保存と活用、基礎調査もしていきたいと思っています。（岡本）

新システムへ 当館資料情報管理のデータベース

現在、当館には歴史・考古・民俗・美術工芸の各分野を合わせて約146,900件の資料が収蔵されています。これらの資料の概要を把握し、各資料に応じた適切な管理を行うためには、資料の名称、員数、収蔵番号、寸法、収集先、受入年月日、画像、資料の状態など、資料に関する情報の集まりであるデータベースが欠かせません。

当館では、平成3年の開館に先だって、手書きの資料カードと光ファイリングシステム（手書きカードそのものを画像として保存）を導入し、資料管理を行ってきました。

しかし、この光ファイリングシステムは、急速に普及し、高性能化したパソコンに及ぶべくもなく、メーカーは相次いで撤退しました。やむなく、当館の資料管理は、平成13年度にパソコン（表計算ソフト）によるものへと切り替えました。その数年後には、また別ソフトで、という様に何度か変更を行ってきました。

しかし、いずれの方法も1台のパソコンでデータ管理を行っていたので、学芸員をはじめ、資料に携わる職員にとって、必ずしも使い勝手が良いシス

テムとはいえませんでした。また、そのパソコンに不具合が生じた場合は、一連の全ての作業がストップすることもありました。

加えて、資料の活用という観点からみても、資料に関する情報は公開されてこそといえます。残念ながら、ウェブ上公開済の当館蔵の資料は、文化庁の「文化遺産オンライン」に掲載した一部のデータのみというのが実情です。誰でも扱い易く、安全な資料管理システムを導入することは、当館において優先すべき課題となっていました。

これらを踏まえ、今年、当館の資料情報管理に必要な機能を備える新たなシステムの導入を検討しました。現在、資料のデータを新システムへ移行するべく作業を進めています。詳細は、新システムが軌道に乗った時点でお知らせしたいと考えています。

新しいデータベースにより、資料の管理はもとより、調査・研究や展示等においても効果的に資料の活用が行われるようになると期待するとともに、多くの方々が利用し易い環境作りを進めたいと考えています。

（曽我）

櫓、いよいよ2月まで

「志国高知幕末維新博」関連企画として、館が立地するここ岡豊山に登場した「櫓」。閉幕が近づき、いよいよ平成31年2月末で公開も終了です。約2年間、風雨にさらされた櫓は、はじめの木の香りこそ薄れてはいますが、山になじむ佇まいになりました。皆様から、「もったいない」とのお声をたくさんいただいたのですが、岡豊城跡は、国指定史跡…。残念ながら「仮設」での許可のため残しておくことはできません。できるなら、私たちが愛着のあるこの櫓に新たな活躍の場を、と願っています。

ですが、その前に！「さよなら櫓！」企画として、櫓をとりまく国史跡をことん巡るウォークを開催します。

ガイドは、「南国市観光案内人の会」の土佐弁も絶好調な名物ガイド、村上隆夫氏を予定。調子がでると時間がど

んどん延長になることも。熱のこもった案内をお楽しみください。

ところで、まだ櫓からの景色を見ていない方はいませんか。標高97メートルの岡豊山山頂部にある櫓の2階床の高さは約6メートル。97メートルでも見晴らしが良いと思っていましたが、このプラス6メートルは、違います！岡豊山の大木に邪魔されることなく、「見渡せる」というより、「見通せる」感覚になります。土佐のみならず、さらに遠くを、さらに強く見据えた長宗我部氏の心も見えてくるようです。戦国時代に想いを馳せる、この気分をぜひ味わってみてください。

（岩本）

さよなら櫓！ 岡豊城跡 ウォーク

◆開催日時：

- ①平成30年12月15日(土)
- ②平成31年 1月18日(金)

いずれも9:00集合
(11:30解散予定)

◆参加費：無料(要申込み)

◆定 員：各20名
(定員に達し次第締切)



第13回岡豊山フォトコンテスト
櫓大賞「元親も観た夏」片山雄史

コーナー展

「国史跡・岡豊城跡」

開催中～平成31年3月31日(日)

岡豊城跡が国史跡に指定されて10周年をむかえたことから、岡豊城跡で出土した瓦を展示しています。

岡豊山めぐり、開催しています！

岡豊城跡を楽しみながら散策したい方を、案内人がお手伝いします。

●案内日時

平成31年3月末までの毎週 土・日・祝日
(ただし休館日や雨天時は中止します)

午前10時出発と午後2時出発の2回
所要時間は30～40分。事前予約不要

※上記以外の日時での案内希望の方は、希望日の2日前までにご連絡ください。

れきみんのお正月

1月2日(水)・1月3日(木)

年のはじめは、お抹茶でいっぶん
名人のこま回しなど盛りだくさん！
(各日の催しの詳細はお正月の
チラシにてお知らせします。)



予告

企画展 土佐・木の民具 ものがたり(仮)

4月27日(土)～6月30日(日)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第104号
平成30年12月1日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円
(団体20名以上) 360円
(企画展)通常展 510円
(団体20名以上) 410円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)
印刷・川北印刷株式会社

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

志国高知 幕末維新博関連企画 第9弾

企画展 郷土玩具にみる

明治のおもかげ

平成31年1月2日(水)～3月24日(日)

会期中無休

郷土玩具収集家・山崎茂さんと
城田政治さんのコレクションから、
明治時代にちなんだ日本のおもちゃを紹介します。



人力車
宇土張り子(熊本県)

●コラボ展

草流舎「土佐和紙と土佐漆喰の郷土人形」
asakozirusi「消しゴムはん画の郷土玩具」

●講演会

「郷土玩具と呼ばれるようになるまで
～郷土玩具は明治時代に発見された！～」

日本郷土玩具友の会会長 中村浩訳氏

1月26日(土) 14:00～15:30 要予約・要観覧券

●ワクワクワーク

「消しゴムはんこで郷土玩具」

asakozirusi 尾崎浅子氏

1月19日(土) 10:00～12:00

電話等で要予約(先着15名)・

要観覧券・小学校高学年以上～大人対象・参加費500円



●ミュージアムトーク

1月2日(水)・1月3日(木)・3月2日(土)

各14:00～14:30 予約不要・要観覧券 担当学芸員

●期間中いつも

◎asakozirusi鳥笛はんこラリー

◎なりきり明治の女学生

◎明治のおもちゃクイズ

コーナー展

えと 干支の玩具 亥

平成30年 平成31年
12月14日(金)～1月27日(日)

ワクワクワーク

12月15日(土) 14:00～15:30

「土佐和紙漆喰張り子 いのししの絵付」 草流舎 田村多美氏
電話等で要予約(先着30名)・要観覧券・参加費1,500円



草流舎作(高知県)

コーナー展

おしなさま

平成31年
2月2日(土)～3月17日(日)

今年のテーマは段飾り雛。郷土玩具の
かわいいオールスターも登場します。



三春張り子
(福島県)